

No. 57

と し ょ か ん 宇 治

2006年9月1日発行

宇治市中央図書館
〒611-0023 宇治市折居台1-1
0774(39)9256

宇治市東宇治図書館
〒611-0011 宇治市五ヶ庄三番割36-5
0774(39)9182

宇治市西宇治図書館
〒611-0042 宇治市小倉町山際63-1
西小倉地域福祉センター3階
0774(39)9226



幼稚園児の見学会

子どもと本をつなぐ

東宇治図書館長 小寺 美佐江

最近、興味深い新聞記事を読んだ。茨城県東海村では二年前から毎週土曜日を「ノーテレビデー」にしようとして取り組んでいる。そのときから唯一続いているモデル一家の紹介だ。三人兄弟は遊びを自分たちで工夫したり、結構上手に時間を過ごしている。両親の話では兄弟喧嘩もふえたが読書もふえたという。記事でも最後には三人が揃って本に没頭していた。

「テレビと子ども」については、教育評論家でもある作家の重松清が近著で「なるほど」と納得できることを指摘していた。その本は、昭和後半に子どもだったフツのオジサンである自分たちの歴史を、年表をたどって考察しているのだが、「テレビは子どもたちに時間を教えた」というのである。テレビが家庭に普及するまで、子どもたちの生活は大雑把だった。それが夕方五時半からの子ども番組を見るために時間を気にしてどんな遊びをしても、さあ解散！ 作者は今もどの曜日にはどの番組をみていたかを覚えている。そして見ているテレビからは、欲しいものが、おもしろいものが、新しいものがどんどん紹介される。ヤッカいな家電「テレビ」と、テレビについての章をまとめた。

いまだきの子どもたちはテレビどころか、テレビゲームやパソコン、携帯電話を使いこなしている。加えて、昭和後半からは子どもたちを取り巻く教育環境が激変し、忙しい毎日を送っている。その影響だろうか。毎日新聞社が毎年行っている読書調査では、一ヶ月に一冊も本を読まない生徒＝「不読者」のデータが一九七〇年後半から増加している。特に中・高校生の不読者が多い。

しかし、この不読者が近年やや減少しているのだ。これはハリーポッターシリーズなど子どもの心を大きくつかんだヒット作品が出版されたほかに、小・高すべての学校で「朝の読書運動」の取組が広がり、読書機会が増えたからではないだろうか。仕掛ければ、子どもたちは本を読む。本の世界を楽しむのだ。子どもたちにとっても生きづらい「現在」だが、人生をより深く生きる力を、さまざまな本が与えてくれる。

宇治市では、ただいま「(仮称)宇治市子どもの読書活動推進計画」を策定中である。図書館では、計画にそって学校図書館とも連携を深めて、子どもと本を結び役割をはたしていきたい。

お話しサークル

「たんぼぼ」の取組みについて

宇治市では、赤ちゃんの三ヶ月児健診の時にブックスタート（はじめての絵本のふれあい事業）を実施しています。ブックスタートとは、一九九二年に赤ちゃんの時から本に親しんでもらおうという英国発祥の運動で、二〇〇〇年から日本でも始まりました。

京都府では宇治市が最初で、平成十四年から始めました。

宇治市では、平成十三年に図書館主催の研修講座があり、受講したメンバーでお話ボランティアとして現在活動している「たんぼぼ」が誕生しました。

サークルでは、毎月月末の四日間の健診時の待ち時間に、お母さんに

だっこされた赤ちゃん向き会って一対一で絵本の読み聞かせをしています。メンバー会員は、生後三カ月の赤ちゃんに絵本の読み聞かせをして理解出来るかと不安に思いましたが、一回目の時から赤ちゃんの反応に驚きました。音と色で構成されたかわいい絵本ですが、赤ちゃんの反応にボランティア全員が大変感動しました。

絵本を仲立ちにして、お母さんと赤ちゃんが共有した時間をもつことの大切さ、心のふれあいの大切なこと、そして赤ちゃんもお母さんも共に成長していくことが大切だということがわかってもらえればいいなと思います、この活動を続けていきます。

このようなボランティア活動に興味がある方、一度やってみたいと思われる方、どうぞ見学においで下さい。お待ちしております。



*青空りサイクル市は、今年で8回目を迎えます。

図書館サークル登録団体

今回、図書館サークルを紹介します。関心のある方は一度見学にきてください。

サークル名称	主 旨	例会日(時間)	会 費	代表者
宇治市読書クラブ協議会	図書館と協調して、図書館の振興と普及に努め地域文化の向上を図ります。	隔月 第4水曜日 (13:30~15:30)	行事ごとに徴収	前川 桂子
宇治子ども文庫連絡会	文庫相互の交流を深め、地域の文化活動の輪を広げていくことを目的としています。	毎月 第2金曜日 (10:00~12:00)	年 2,400円	宇民 雅子
宇治市史を学ぶ会	若原英式先生(京都府文化財保護指導委員)の指導により、宇治市史全6巻を学習中です。	毎月 第1・3木曜日 (10:00~12:00)	月 1,000円	奥谷 哲
おはなしたまてばこ	図書館、小学校、幼稚園、保育所などで、子どもたちにストーリーテリングをしています。	毎月 第1・3火曜日 (10:00~15:00)	年 500円	秋津 公子
絵本サークルぐるんぱ	絵本を愛する人が集まってテーマを決め、絵本を読み楽しんでます。	毎月 第2・4火曜日 (10:30~12:30)	随時徴収	松田 承子
本の修理ボランティア	本の外装破損、ページはづれ、糸ゆるみなどの修理をしています。	毎週 金曜日 (10:00~12:00)	0円	桑 誠二
さんりんしゃ	ボランティア活動として、子どもたちに紙芝居などをするために、作品を制作しています。	毎月 第2・4水曜日 (10:30~14:00)	年 500円	石川 幸子
おはなしサークルたんぼぼ	ブックスタートのボランティア、図書館の行事などに参加し、町内会、子ども会にもでています。	毎月 第1水曜日 (10:30~12:00)	年 600円	木村 孝子
宇治の語り部「かわせみ」	宇治山城の民話口承の勉強会を実施し、民話発祥の地の探索もしています。	毎月 第1木曜日 (13:30~16:00)	年 2,400円	松山 一三

詳しい事について知りたい方は、中央図書館までご連絡ください。

図書館へようこそ

利用者インタビュー

第 43 回

小 谷 剛 次 さん



西宇治図書館によく来られる小谷剛次さんにお話を伺いました。

* 図書館によく来られますね

☆ 図書館に居ると本を読もうという気になるので、それだけでもすばらしいと思います。

図書館を利用し多くの本に目を通すことで本をみる目が肥えます。

* 図書館の利用と本の選び方は。

☆ 私の読書は乱読です。タイトルや作者にひかれて本を入手しても面白く、気に入って最後まで読みたいと思うのは、二十パーセントぐらいです。

そのため当たりの本(?)に出会うのには図書館で直接本を手にとるのが、最も効果的な方法です。

良い本に多くふれることで自分の視野がひろがり、いろいろな人の幅広い物の見方・考え方を学ぶことが出来ると思います。

* よくインターネットを利用されていますが、IT社会といわれる今日の読書方法について何かありますか。

☆ 私は図書館でインターネットもよく利用し、主にサイトのニュースを見ます。ITの情報はリアルタイムであるというのが一番の魅力です。そして情報検索において

は非常に大きな能力を発揮します。

ITを使って、あるテーマを検索して、出てきた数多い情報の中から、読むに値する(読んでみたい)本を探し、それを乱読するというのが私の読書方法です。

ITは、必要な情報を手に入れるための道具であり、得た情報どのように使いこなすかが大事だと思います。

* 道具としてのコンピュータ以外の知識が必要ということですね

☆ ハイテク社会の今日では、コンピュータ以外の知識がとても重要となってきています。それは人間を理解するともいうのでしうか。

そのためには、いろいろなものの見方・考え方を吸収し、自分なりの価値観を磨いていくための幅広い読書・遊び感覚の雑学の吸収によるスキルアップをはかることが大事でしょう。

京都のハイテク企業などが中国

に進出しています。現地でのビジネスに「論語」を読んでもくと語学よりもずっと役に立つというのを聞いたことがあります。中国語を使えるということは決め手の能力にはならないということです。お互いに信頼し合えるかどうか、大きなポイントとなるそうです。それは現地の人の考える基盤を知ることが出来るからです。

* 小谷さんのおすすめの本がありますか。

☆ お勧めのこの一冊というものは無いのですが自分の読書方法と、その目的について書かれている次の著者の本がお勧めです。「立花隆」、「渡部昇一」、「谷沢永一」、「斉藤孝」、「堀紘一」

* ありがとうございます。

本棚の中の宇治

度 会 貞 徳

『貞徳他行道之記』

天正十一年（一五八三）五月のなかば、茶摘みもようやくすんだであろう宇治の地を、ひとりの旅人がおとすれた。伊勢外宮の神官度会貞徳である。京・大坂・堺など畿内の名所見物の途次立ち寄りたもの。藤森・木幡を経て宇治へやって来た。

橋にて心ある出家に逢て、橋の小島、山吹の瀬、八の宮の御旧跡など相尋て、平等院へまiori心静に打休み

おそらく彼は、宇治橋からあたりの景色に見入っていたのであろう。すると、名所旧跡にくわしい親切な僧侶が、この地を案内してくれらると言う。古来歌に詠まれてきた「橋の小島」や「山吹の瀬」源氏物語宇治十帖の舞台となった「八の宮」の旧跡、そして平等院へ。

宇治名所を満喫し、堺への道筋をたずねると、小倉から舟の便があるという。ちょうど良い出船に

間に合い、日暮れに淀に。そこで夜舟に乗り換えて、翌朝辰の刻（午前八時ごろ）に大阪着。天王寺・住吉を経て、その日のうちに目的地・堺に着くことができた。

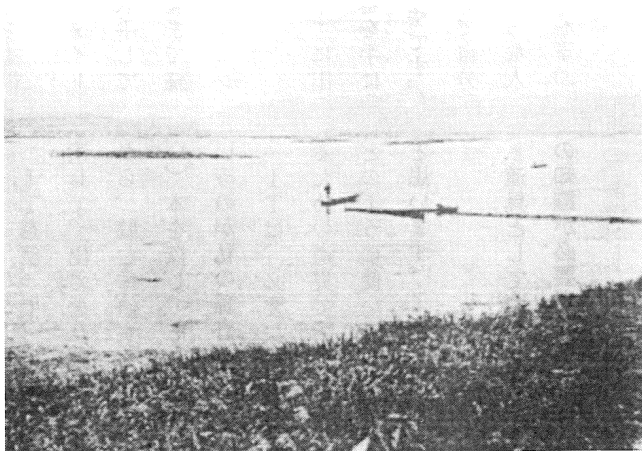
わずかな記事の中に、興味深い内容が散見される。まずは八の宮の旧跡。江戸時代前期以降、宇治川畔のそこかしこに十帖の古跡が配されるが、当時すでに一部の学者が異を唱えていた。「フィクションなのに古跡なんかあるはずがない」と。巻によつては、宇治を主舞台としないものもある。ただ、創作とわかっ

てはいても、ゆかりの地で登場人物に思いをはせるのは、今も昔も変わらぬ人情というものだろう。石仏や自然景観などをそれと見立てた「古跡」とは違う、本来の意味での「旧跡」が、地元の人びとのあいだでわが街の名所として育まれていたことがうかがえる。

もう一点は、小倉からの船便の存在。貞徳の宇治訪問は宇治川と巨椋池を分離

する太閤堤が築かれる以前のこと。淀川水系全域にまでひろがる航路がめぐらされてきたようだ。現代のわれわれが想像する以上に、水上交通のネットワークが発達していたことを教えてくれる。

『貞徳他行道之記』は、『続々群書類従 第九 地理部』所収。本書は書庫にありますので、閲覧希望の方はカウンターで請求してください。



大正時代の巨椋池

利 用 案 内

・市内に在住、または市内に通勤・通学されている方なら、貸出券を作ること
で一人十冊三週間、本が借りられます。
貸出券は全館共通です。図書館で借りた本は市内のどこの図書館へも返却することができます。

・図書館は九時から十七時まで開館しています。休館日は毎週月曜日、第四木曜日（いずれも祝日の場合は翌日）、祝日の翌日（土・日曜日の場合は平日に振替）、年末年始です。

・予約された本を市内四カ所の公共施設（木幡公民館、槇島コミュニティセンター、南宇治コミュニティセンター、開地域福祉センター）で受け取ることができます。毎週一回、木曜日の午後

に搬送します。
・図書館で借りた本は公共施設へ返却することはできません。

あ と が き

夏は、いかがお過ごしでしたか。残暑は、まだ続きそうですが、いよいよ食欲の秋・スポーツの秋。そして読書の秋です。

秋の夜長、ゆっくりと本を開いて、本の世界に旅してみませんか。きっといい事がありますよ！

図書館でお待ちしています。